『白神ねぎ』の商標登録を追い風に、更なる産地拡大を目指す

▲商標登録を喜びあう袴田組合長と山谷初男部会長たち

1月24日にJAねぎ部会による実績検討会が開かれ、平成24年度の事業実績や、『白神ねぎ』という名称が商標登録されたことも報告されました。

平成24年度は夏場の高温と干ばつ、秋の多雨・早期降雪で生育や作業に大きな影響がでました。検討会では、それらに対応した栽培や作業の効率化を目指し、商標登録を追い風に更なるブランド力強化を誓い合いました。

農業機械パワーアップ運動成果発表大会で、当JAから3名が受賞

▲敢闘賞を受賞した工藤誠治係長（左）

農家訪問を通じて組合員との絆を深め、優秀な業績を上げたJA職員の活動成果を表彰する、秋田県JA農業機械パワーアップ運動成果発表大会が、1月26日に秋田市で開催されました。

当JAからは、修理整備料金部門で工藤誠治さん（能代農機センター係長）が敢闘賞に輝いたほか、農家訪問活動部門優秀賞に小森和正さん（二ツ井・藤里農機センター係長）、特別功労賞に米川英子さん（同）が選ばれました。

新年を迎え部員同士の絆を強め合う、女性部冬期講座を開催

▲女性部員を前に講演を行う袴田組合長

JA女性部は1月15日に藤里支部で、16日に二ツ井支部で冬期講座を開催しました。

2日間で180名が参加した冬期講座では、袴田組合長による講演や恵方巻き作り、またレクリエーションなどを通して、会員たちが交流を深め合いました。

袴田組合長は、「組合員であることに満足できるような事業の展開に向け、地域活力の柱である女性たちと連携して取り組んでいきたい。」と抱負を語りました。

気象変動等に対応した栽培を検討、JA稲作部会検討会

▲昨年の稲作状況について総括する担当者

JA稲作部会（大塚公隆部会長）は平成24年度の稲作を総括し、次年度の栽培を考える検討会を開催しました。

平成24年度は夏場が高温多照となり、胴割米が多く見られたことから、高温時は水管理で地温を下げ、登熟期が高温多照の年はやや早刈りすることや、土壌改良剤の必要性が検討されました。また、カメムシ対策として、出穂期10日後と24日後の薬剤防除、除草作業の徹底が呼びかけられました。

牡牛座（4・20～5・20） 好奇心が旺盛になり、いろいろな人との交流を楽しめる気配。人脈拡大を目指し、サークル活動を始めてみては